

『教育じほう』一九六三年二月（東京都新教育研究会）

経済成長と教育の役割

矢口 新

1

最近経済成長における教育の積極的役割が注目されはじめた。教育投資などということばが例によって流行して来た。つまり、教育費は経済成長のための投資となつてるので、従来考えられていたように単なる消費ではないのだということである。ごく単純に考えれば、これはきわめてあたりまえのことであつて、だれもが常識的には是認していたことだともいえる。しかしこれが経済学者によつて問題とされて、いったいどれだけ投資したので、それはどのように経済効果をあげているのか、という計算になると問題はむずかしくなる。漠然とは効果があることは是認されても、はつきりと数字で示されないというわけである。そこでつぎのように考えてみる。

経済ののびというのは、たとえば国民総生産ののびを比較してはかるといふようにやつてゐるが、その条件となるもの、つまり投下資本とか、あるいは労働者とかも、またのびをはかることができる。両者ののびを比較してみても、それが同じ率であるとすれば、他に条件はないということになる。かりに今、資本と労働とを二つの条件としてあげたとして、その条件と総生産ののびがまったく同じだとすれば、

条件はそれで完ぺきだということになる。ところが総生産ののびが低いときは、経済効果はマイナスである。なにかマイナスの条件があつたことになる。また総生産ののびが多ければ、その場合ももつとなにか他の条件があつたと考えられるであろう。これまでの考え方は、その他にある条件がなにかということあまり問題にしなかつたが、考えてみれば、そこにはたとえ人間の質の向上という条件があつて、今までのような考え方で計算にのぼつてこないものが大いに働いていると考えられるのではないか。同じ施設設備で、同じ労働設備で、同じ労働者の数でも、その労働者の質が高ければ、全体としての生産はあがると考えられる。こういう質的なことは改めて問題にしてもよいことであろう。そこを問題にしたのが教育投資の考え方なのである。しかし冷静に考えれば、条件に人間の質的条件があるとは考えられるが、それはイコール教育ではない。人間の健康ということもあろうし、人間関係ということもあろう。だからそう単純に教育だけに割り切つてしまふのは危険であろう。その辺のことについては、これからの研究にまつところが多いというわけである。従来は、日本民族の優秀性などということを経済成長の理由にしていた。そのばあい、経済成長の条件などという考え方はあまりなかつたけれども、そういうことも条件という考え方で考え直せるかもしれない。

2

文部省の教育白書では「人間能力」という考え方を出しているが、それは、上に述べたようにいままで見過ごしてゐたものを一括して表現することばだと考えてよい。そしてその「人間能力」を育てるものが教育だということになる。それが教育を投資として見る見方であるというのである。がこれはうっかりすると、ただことばの言いかえに

すぎないことになる恐れがある。教育費ということばで考えられたものが、教育資本と言いかえられたことになる。それでも教育資本と言いかえてみることは意味がある。資本であるからにはその收益率を問題にするわけである。そのことがある意味で重大なことである。この收益率を考えるというのは、たとえばシュルツによれば、ある経費を使用して、育てた人がどれだけの所得をもったか、その所得と使った金との比を考えるということである。このような計算方式で、日本において、昭和五年から昭和三十五年の期間での收益率を問題にして試算したら、国民所得の増加分の約二五%が教育資本の増加による収益に当たるということになる。文部省は発表している。国民所得の増加分の四分の一は教育のおかげだということになるから、教育の役割は重大であるということになる。つまりこれまで教育は大切だと観念的に言われていたことを、計数上ではつきりさせたということである。

しかし問題はこれから先にありそうである。それはつぎのように考えてみるとよい。今日本の教育は、必ずしも人間能力をじゅうぶんに開発するようになってきているとは言えないものがある。この点については異論のある人もあるがもしれないが、そういう点を一歩ゆずって完ぺきではないことはだれも認められよう。そこで、もし改善すべき所を改善すれば、もつと收益率は高くなると考えられる。それはいつたいどこであるか。あるいは今の教育の延長で、教育経費、すなわち教育資本をより多くすれば、つまり増額すれば、収益率は高くなるであろうか、こういうふうな問題にして考えてみると、教育投資という考え方は、何も出て来そうにないような気がする。というのは、今の教育投資論で行くと、資本を増額するということは、いちばん単純に考えるなら、教育対象の数をふやすことである。すべてを高等学校、

すべてを大学という方向へふやすことになる。そうなれば収益率はますます高くなるということであろうが、これは明らかにおかしそうである。それでは、教育の質をかえることによって資本の増額をしないばあいはどうか。それは収益率が高くなるということは考えられよう。しかし質を高めるために、資本の投下はおそらく必然的に起こるであろう。その時は収益率は高くなるであろうが、おそらく、質を高めればそういうことも考えられるであろう。そうなる問題は、どのよう質を高めるか、これが問題になるであろう。その点については、これまでの教育投資論は、具体的なものを示していない。そういうところで、ただ教育に金をかけさえすればよいというような考え方は、やはり危険であると言わなければならないであろう。

3

さて以上のように考えると、経済成長に果たす教育の役割という問題は、いかなる人間能力が、今後の経済発展のために要求されるのか、そしてそういう人間能力はいかにして形成されるかという問題になる。そしてそれは、昔ながらの基本的な教育問題である。この基本的な観点を忘れると、野球学校でもつくって、資本を投下すれば、収益率がいちばん高いなどという錯覚におち入りかねないことになる。

この問題は具体的な現実分析の問題で、これまでの産業界、経済界で、科学的に究明されたことのない問題である。とくに、人間能力の開発という点からこれまで本格的に問題にしたことはないといつてよい。そこにこの問題のむずかしさがあるのである。

産業界が必要とする人間能力は、ごく常識的には、技術革新の世界に対応することのできる高度な技術の持主が必要だなどと言う。あるいはオートメーションの中で働く人間は、これまでとはちがった人間

を必要とすると言われるが、それから先がきわめて皮相的にしか考察されていない。技術教育が必要だとか、オートメーションについて教育しなければならぬとだけは言うが、その教育のあり方自体はなんら昔とかわらない、古くさい教育なのである。この点について、もし、技術革新の行なわれた生産の場での人間の行動の仕方、オートメーションの中で人間の行動の分析が行なわれて、その頭の使い方、神経の使い方、感情の使い方等々が明らかにされて来たらどうであろうか、そうしたらおそらく現在の教育の方法や内容では、そういうものは育てられないことになるのではないか、そうするとそこに新しい人づくりとは何をするかが明らかにされて来る。そういう教育が考えられなければ、経済成長における教育の役割を考えることにならないであろう。

4

そこで具体的な実例をあげて、新しい教育の役割を考える方向をあげてみたい。たとえば、最近企業の中へ新しくはいつて来る大学卒や高校卒、中卒者の不適応の問題が起こっている。どこの企業体もあまり公表しないのでよく知られていないが、入社後問題をおこしたり、結局退社したり、あるいは自殺したりするものがいちじるしく増加している。これはいったいどこに問題があるのか。企業の方にもそういう新しい社員を育てる力に欠けるものがあるのである。あるいは、あるいは学校の教育にも問題があるのだろうし、そこに人づくりの新しい方向が考えられるチャンスがある。しかしそれには、そういうものにもっと迫って実情を明らかにし、科学的に究明するものがなくてはならない。

新入社員の問題ばかりではない。著者は、最近ある企業で、第一線

の監督者、つまり職長、組長クラスの者が、新しくはいつて来る青年工員の指導について手をあげている、途方にくれている話を聞いた。要するに若い者の気持ちがわからないということであるが、その中味はなかなか複雑である。同じ職場であって一緒に働くのであるから、わからないではすまされない。いろいろな紛争がおこるわけである。上からは指示され、下からはつきあげられほと困っているのである。これも職場への不適応である。それらの第一線監督者は、十五年、二十年の間その職場で生活して育てられて来ているのである。そういうものが不適応になっているのである。考えようによっては、企業体は、それらの古い人々を、これまで本当に教育して来なかった、育ててこなかったのである。だから今になって、行動の仕方に迷っているのである。事実聞いてみると、その企業では、十五年、二十年の間、その人々の労働を買っていただけで、第一線の監督者になった時のふるまい方、それに必要な生活技術や教養を与えてはいないのである。だから実際にそういう立場におかれて途方にくれるのである。こういうことも経済成長をとげるには大切な目のつけどころである。

本当に経済成長を考えるには、本当に人間性を開発しなくてはならぬであろうし、本当の人間能力を育てなくてはならない。本物の教育をしなくてはならない。そういう教育の発見こそがこれからの課題だというべきであろう。

(国立教育研究所員)